

# 不当解雇撤回闘争 勝利報告集会を開催



## 勝利報告集会で団結を誓い合う

横浜支部は6月15日横浜港波止場会館で夏季一時金の支部集団交渉のあと17時半から、解雇撤回勝利報告集会を盛大に開催し、お祝いにはストライキ中に激励に来てくださった皆さんと、80名余の組合員が勝利解決を祝うと同時に支部のますますの団結を誓い合った。写真中央が平良さん。(報告：関東地本書記長 鈴木茂)

## 不当な解雇は絶対許さない



前日から周到な準備を行い、当日は90名の支部組合員と、東京支部、鹿島港支部の支援の仲間が駆けつけ、倉庫の2箇所の出入り口を宣伝車、組合員の自家用車で封鎖し、社前のビラ撒ぎと、青年部による間断ないシュプレヒコールを行い、倉庫内の労働者と引切り無しに通行するトラック・海コンのドライバーに訴え行動の正当性を訴えた。

## スト決行

横浜支部と会社と締結した事前協議制度を無視してきた。我々、労働組合を軽視する行為について再三抗議したが「協議はした」「法廷で会いましょう」等会社側は対決姿勢を前面に出してきた。平和裏に会社と交渉を重ねたが会社は全く解決の意思がなく行動による解決しかないと決議し、4月24日早朝4時から大黒ふ頭に集合し、湘南企業(株)の現場を8時30分の始業時からピケットで出入庫を阻止する24時間ストを決行した。



## 事件の発端

湘南企業(株)は、横浜港の港運専業会社で主要な大手倉庫会社の出資により設立された会社で、20年余り総務業務で働いていた平良直子さんを、職場内で同僚性がないとの理由で同僚らの証言などを示し会社は突然昨年11月15日に一方的に不当に解雇した。

## 支援体制の包囲網の確立が 勝利の結果

午後になって地元港運協会、荷役協会の役員が仲裁に入っただけ折衝が持たれ、当初は会社側からは強硬な姿勢が出されましたが、再度の仲裁によって会社側が折れ、「解雇は白紙撤回し、本人に謝罪する」との意思表示があり、午後3時30分にストライキを解除し、現地で鈴木誠一委員長から報告され勝利解決を確認した。

平良さんご本人のくじけぬ粘り強い意志と、ストライキ経験のない横浜支部の若い組合員たちを統率する鈴木委員長以下執行部の決意、法的手段に委ねず実力で解決を目指し、地域の中間の支援体制の包囲網の確立が勝利の結果であると総括した。



## 社前行動で訴え

今回の行動には従前から、中央本部は勿論、全国港湾や地区港湾、また中央単産の日港労連さん、神奈川交運労協さんなどにも闘争の正当性と支援を訴え、「みなとにおける不当な解雇は絶対許さない」をスローガンに完全勝利を目指した闘いでした。スト中には、松本中央委員長、真島中央書記長、竹内日港労連中央書記長、松谷交運労協事務局次長と、神奈川県私鉄、相模鉄道労働組合、臨港バス労働組合の皆さんも駆けつけていただき心強い激励を受けた。



## スローガン選考

スローガン選考では「時代を担う仲間と共に、二度ないこの時を！全港湾青年部」が選ばれました。青対や平和行進を通して出会った仲間と、全国の港を守っていくために今やるべき事を考え、反核運動や平和運動についても横のつながりを更に強化し、今の活動に対して仲間と共に精一杯頑張っていきたいと思いました。



## なぜ青年部ができたのか

2日目は、鈴木誠一副委員長の講義が行われ、全港湾の歴史、労働組合の大切さ、6大港と地方港の違いを解りやすく教えていただきました。一番の印象は、全港湾の歴史の中で、先代は今の青年部と同年代の時に労働組合を作り第一線で闘ってきた。「なぜ青年部ができたのか」という話を聞き、近い将来、自分達が先頭に立って活動をしていくためにも、意識改革、知識向上を図り職場を守れるよう活動を精一杯行っていきたいと思います。



## 青年活動年間スローガン

# 時代を担う仲間と共に 二度とないこの時を！全港湾青年部

報告：東北地方小名浜支部青年婦人部 武田陽介

## なぜ歴史を学ばなくては いけないのか

最終日は松本委員長の講義の「なぜ歴史を学ばなくてはいけないのか？」という中で、「歴史を学ぶという事は同じ失敗をしないという事」という話がありました。全港湾の歴史の中で、先輩方が闘ってきた事、守ってきたものをしっかりと学び、何事にも挑戦していきたいと思いました。



6月23日から3日間、第21回青年対策交流集会在シーパレスで開催されました。鈴木勝也中執の開会挨拶で、平和運動はこの先沢山の活動があるが諦める事なく続けてほしいと話があり、港湾の自動化については雇用・職域確保のために反対するべきであり、将来的に青年層がしっかりと考えるべきと感じました。諸見書記次長からは青対をどのように作っていくのか、今回の運営委員会方式の開催は、これからの第一歩に繋がるという話でした。中執挨拶後、地方活動報告と自己紹介が行われ、各地方青年部の活動を知る事ができ、自分達も出来る事があれば積極的に取り入れたいと思いました。



## 全国の仲間と楽しい3日間

今年で4回目の参加となりました。改めて全港湾は本当に素晴らしい労働組合だと実感しました。一つの問題に真剣に考え議論し、仲間意識が強く全国の仲間と楽しい3日間を過ごせました。今回、各地方の仲間の言葉を聞いたからこそ、更に地元でも平和運動や地域活動に取り組んでいきたいと思っています。



## 班の議論で更に情報を共有

分散会は5班編成で、課題を「青年部のあり方、今後の活動」とし、班ごとに議論をしました。分散会発表では、各支部、各地方でコミュニケーションを図りながら活動する事が一番大事とし、全国で情報の共有、青年部の横の繋がりを強化しなければならないとの意見になりました。



## TOPICS

### 全倉運 70 周年、次は 100 周年だ！

7月10日、全倉運(全日本倉庫運輸労働組合同盟)の70周年祝賀会が大田区蒲田プラザペアで開催されました。主催者挨拶で柳野委員長より、全倉運の歴史や経過、更なる飛躍をと力強く語られ、次は100周年だ！と、笑いを交えた挨拶がありました。

続けて、来賓を代表して全国港湾の糸谷委員長が挨拶を行いました。全倉運の過去の闘い、今日までの取り組み、昨今の日港協労務委員長は歴代元請け倉庫から選出されているなど、全倉運と港湾産別の関わりを述べ、今後更なる連帯をと挨拶されました。乾杯は、全倉運出身で大港労協の三宅事務局長より、自身の経験・合理化闘争を語りながら、盛大にスタートしました。

約1時間半の祝賀会で全港湾は常任全員でお祝いに駆けつけました。出席者総数は80名ほどで、その内、全倉運組合員の方が50名余りでアットホームな雰囲気でした。祝賀会の締めは、三井埠頭倉庫組合の椿委員長による「三本締め」で楽しい宴会の幕を閉じました。

